

October 18, 2019

UNDP Africa SDGs 達成に向けて日本の生徒達を迎える

TICAD→Tokyo International Conference on African Development (アフリカ開発会議)
UNDP→ United Nations Development Programme (国連開発計画)
RBA → Regional Bureau for Africa (アフリカ局)
SDG s → Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)
PMJ → Permanent Mission of Japan (国際連合日本代表部)
UNOSAA→United Nations Office of the Special Adviser on Africa (国連アフリカ担当事務総長特別顧問室)

日本の横浜で成功を収めた TICADVⅦから 1 か月後の 2019 年 10 月 18 日、ニューヨークの UNDP アフリカ局は、TICAD の一員である星槎中学・高等学校から 36 人の生徒の訪問を受けた。

横浜にある星槎は、アフリカ、アジア、日本が国境を超えて組織的に活動することを誇る教育機関である。

2018 年、星槎の生徒達は、外務省、環境省、神奈川県、そして 20 を超えるアフリカ諸国の大使と協力して「第 4 回 Seisa Africa Asia Bridge」を成功させた。この目的は日本、アフリカ、アジアそして太平洋沿岸諸国が、友人として一緒に世界平和を創り上げていくことである。

星槎中学・高等学校の訪問は、国際連合日本代表部と UNDP RBA TICAD 部門の協力によって準備され、星野俊也大使（国際連合日本政府代表部次席常駐代表）と伊藤あや子氏（国際連合日本代表部）、Coordination Advocacy and Programme Development Branch のチーフである Mr.Raul de Melo Cabral(国連アフリカ担当事務総長特別顧問室で TICAD を組織)が出席した。

この会の中で、星槎の生徒達は UNDP RBA チームから、日本政府の信頼される開発パートナーとしての UNDP の役割や、アフリカ大陸の発展だけでなく世界的に活動範囲を広げているという短い説明に興味深く聴いていた。

UNDP Africa の戦略的顧問である Ms.Eunice Kamwendo はグループの訪問を歓迎し、最近の日本が受けた台風被害に哀悼の意を述べた。

星野大使は国際連合日本代表部の役割と権限を話し、文献や報道機関の情報には無いアフリカを訪れ、発見し、体験することを生徒達に強く勧めた。

TICAD Co-organizer であり、Global Advocates for Africa に権限を委譲された Mr.Raul de Melo Cabral は 1993 年からの TICAD の歴史的進歩を述べ、TICAD の発足以来、今日のアフリカがいかに積極的に楽観的に変化を遂げたかを説明した。

プログラムディレクターである星槎高等学校の佐々木邦子氏は「今後、本校がSDGsの達成に向けて取り組みを具体化して行けることは、生徒達にとって大きな励みです。」と語った。

生徒代表の堀江美羽さんは、「Seisa Africa Asia Bridge 宣言」を手渡し、3つの約束を提唱した。「人を認める」「人を排除しない」「仲間を作る」。

「興味深いのは、あなた方の3つの約束がSDGsの原理と非常に似ていることです。」RBA 戦略的顧問は、「誰一人取り残さない世界を目指して」という2030年までに達成すべきSDGsの原理と同じ方向を、星槎が目指していることを話した。

Ms.Kamwendo はまた、星槎高等学校が Africa-Asia-Japan と SDGs の橋渡しに専念していることに喜びの意を表した。

「全ての中で最も大切なことは、将来世界のリーダーとなる生徒達やあなた方の世代を私達が理解し、あなた方によって Africa-Asia-Japan と TICAD が将来一体となることなのです。」と、UNOSAA の Mr.Cabral は話した。

UNDP と神奈川県は SDGs の地方の取り組みを強化するために、強力な相乗作用で結ばれている。神奈川県は地方自治体の中で先頭に立って SDGs を促進している。

SDGs をキー（基幹）として認めることは開発目標の達成を可能にし、初期の「SDGs 全日本大会」で多様な投資家達と関係を築いた神奈川県は、「SDGs 日本モデル」として「神奈川 SDGs 活動計画」を実行している。

TICADVII横浜サミットの会期中、UNDP と神奈川県は協力して、サイドイベントを開催した。神奈川県で証明された、多岐にわたる各部門のパートナーシップや地方に特色を与えることの大切さ、意欲的な体験とリンクする新しい発想の重要性をアピールするためである。

生徒達とのディスカッションの中で、若い世代がリーダーシップをとること、そしてアジアとアフリカの橋渡しをする役割の重要性が強調された。

RBA 戦略的顧問は次のように述べた。

「アフリカはビジネスの場として開かれ、状況は変化している。アフリカ局にとって若い世代に投資する事は、就労人口の増加によって生産力と購買力が高まり、大陸の経済成長を高めるという恩恵に授かるために、この膨大な労働力に焦点を戦略的に合わせることである。現在アフリカの人口の 60%は 25 歳以下である。」

Ms.Kenwood は、2019 年 11 月 9 日、10 日に開かれる Seisa Africa Asia Bridge が成功するようにと激励し、次はアフリカで生徒達に会いたいと述べて、会を終えた。